

科 目 名	SS 英語 I <論理表現分野>	理数科・ 1年次・5単位中2単位
目 標	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深め、これらを実際のコミュニケーションにおいて目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けさせるコミュニケーションに必要となる、英語の基本的な表現力を身につける。	
位 置 づ け	中学校3カ年で学んだことを基礎にして、事実や意見などを多様な観点から考察し論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。	

■使用する教材 ・English Logic and Expression I be clear ・be Grammar Book clear ・総合英語 be 4th Edition ・ハンドアウト ほか	■学習する単元とおおよその時期 (1)L1,2,3 時制 (4月) (2)L4,5 完了形 (5月) (3)L6,7,8 助動詞 (6月)」 (4)L9 受動態 (7月／8月) (5)L10,11,12 不定詞 (9月／10月) (6)L13 動名詞 (10月) (7)L14,15 分詞 (11月) (8)L16,17 関係詞 (12月) (9)L18,19 比較級 (12月／1月) (10)L20 仮定法 (2月／3月)
■授業の流れ、予習・復習を含めた学習方法 ・予習:教科書に関するハンドアウトを活用し、新出単語・熟語の定義、用例や、本文の概要を把握する。Writing に関してはテキストの問題に取り組む。 ・授業:ハンドアウトを活用した理解、定着、本文関連する意見を交流。Writing, Listening は、テキストの内容に関する理解、定着、活用。 ・復習:学習した項目の定着、活用	

■観点別評価について

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	A 学習した知識や技能に関して、ほぼ正確に用いられる。	学習した事項の概念を理解し、状況に応じて活用し、論理的に表現をすることができる。	知識、技能の獲得や、思考・判断・表現等の育みを粘り強い取り組みをして行える。
	B 学習した知識や技能に関して、ある程度、正確に用いられる。	学習した事項の概念を、状況に応じて活用し、ある程度、論理的に表現をすることができる。	知識、技能の獲得や、思考・判断・表現等の育みを粘り強い取り組みで行う姿勢はある。
	C 上記が達成できていない	上記が達成できていない	上記が達成できていない
評価の場面	定期考査、小テスト	定期考査、パフォーマンス課題(エッセイライティングなど)	授業中の参加態度